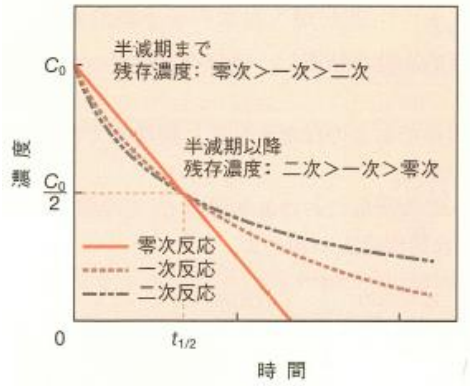
スタンダード薬学シリーズⅡ 2 物理系薬学 Ⅰ. 物質の物質的性質 補遺・正誤表 第 2 刷

（2020 年 8 月現在）

箇 所	誤	正
p. 73 図 12・5 タイトル	水電子遷移の分類	電子遷移の分類
p.87 ↓10	SBO14・1 で見たように	すでに見たように
p.141 ↓2	…窒素ガスが 4 atm 気圧詰まった 5 L の	…窒素ガスが 4 atm 詰まった 5 L の
p.141 ↓4 p.141 ↓8 脚注追加	を開いた時の圧力と各気体の分圧を求めよ. 気のモル分率と分圧を求めよ.	を開いた時の圧力と各気体の分圧*1 を求めよ. 気のモル分率*2 と分圧を求めよ. ＊1，＊2 分圧とモル分率については SBO39（p. 223）参照.
p. 165 本文↓11	…1 mol 当たりの量で表せば，$dH_m = dU_m + p_{ex}\,dV_m$）であるから，	…1 mol 当たりの量で表せば，$dH_m = dU_m + p_{ex}\,dV_m$ であるから，
p.257 ↑9	(d) Mg のモル分率 0.5 の溶液 200 g を 400℃に冷却して平衡に達したとき，存在する相の数とそれらの相に含まれる化合物の組成およびその質量をすべて計算せよ.	(d) Mg のモル分率 0.5 の溶液を 400℃に冷却して平衡に達したとき，存在する相の数とそれらの相に含まれる化合物の組成を答えよ.
p. 306 （51・24） 式	$-\dfrac{dx}{(a-x)(b-x)} = k\,dt$	$\dfrac{dx}{(a-x)(b-x)} = k\,dt$
p.309 ↓5	半減期が等しいそれぞれの反応次数における反応速度は，半減期までは二次＞一次＞零次の順であるが，半減期を過ぎると逆転し，零次＞一次＞二次の順となる.	半減期が等しいそれぞれの反応次数における残存濃度は，半減期までは零次＞一次＞二次の順であるが，半減期を過ぎると逆転し，二次＞一次＞零次の順となる.
p. 309 図 52・4	右のようになります	 図 52・4 反応次数と残存濃度との関係 初濃度 C_0 および半減期が同じ場合
p. 354 応用・発展 22・1↓3	…酸素ガスの圧力…	…酸素ガスの圧力（分圧）…
p. 354 応用・発展 22・1↓4	…窒素ガスの圧力…	…窒素ガスの圧力（分圧）…

箇 所	誤	正
p.354 応用･発展 22･1↓6	窒素ガスの分圧は 2.5 atm，全圧は p= …	窒素ガスの分圧は 2.5 atm，ドルトンの分圧の法則（p. 223 参照）より全圧は p= …
p. 355 左段↓1	…CH_3COOH のモル分率を x とすると，…	…CH_3COOH のモル分率（p. 223 参照）を x とすると，…
p.364 応用･発展 43･4（d）	$200 \times \frac{0.68-0.50}{0.68-0.33} = 102.9\,\mathrm{g}$ $200 - 102.9 = 97.1\,\mathrm{g}$ Mg：$97.1 \times 0.68 = 66.0\,\mathrm{g}$ Zn：$97.1 \times (1-0.68) = 31.1\,\mathrm{g}$ の式を削除	（d）相の数： 2（固相と液相） 固相： 100 % $MgZn_2$（純粋な分子化合物） 液相： Mg のモル分率 0.68 の Zn と Mg の混合溶液